

観光でまちを元気に! 日本・ふるさと 再発見!

改訂版

教師用
手引書



総合的な学習の時間、
社会科等の授業に使える！



公益社団法人 日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

はじめに

『教師用手引書』のねらい

「観光は平和へのパスポート」と、国際連合で唱えられたスローガンにみられるように観光という行為は、他者との交流による相互理解、ひいては平和の構築につながる効果が期待できます。自分が訪問先に旅をする場合でも、訪問客が自分の住む地域に来訪する場合でも、その地域(国)や人々を理解するきっかけになります。国内外の魅力的な場所を知り、そこに住む人々との交流を盛んにすれば、広い視野で自文化や自國への愛着と誇りが培われ、結果として多文化への寛容心や自國を愛する心情も高まります。

さらに観光の学びを通してふるさとの魅力を多角的に捉え直したり、観光事象を通してSDGs(持続可能な開発目標)にも配慮した地方創生や、観光地の環境や文化を大事に扱う責任ある観光(レスポンシブル・ツーリズム)へのまなざしも強める機会にできます。

2022年3月に発行された『観光でまちを元気に!日本・ふるさと再発見(改訂版)』(以下、『改訂版』と略)は、題材を観光に絞った「はじめて学ぶ観光副読本」として「総合的な学習の時間」だけでなく、外国語や社会、国語、理科、家庭、音楽、美術、保健体育、道徳、キャリア教育、教育旅行などを扱う場面でも有効に活用できます。工夫次第では、観光という題材はいろいろな場面で授業のスパイスになるのです。

現在、我が国は人口減少や高齢化が一層進展し、生産年齢人口の都市部への流出に伴い、地方の衰退は深刻になっています。国全体の国際競争力も相対的に低下しつつある中で、持てる資源を有効に活用できる観光振興への期待は益々高まっています。新型コロナウイルス感染症や大国の霸権争いといった不確実性も横たわっている昨今ですが、次代を担う子どもたちの豊かな観光知や企画力、ホスピタリティマインド、社会参画力等を育ててほしいと願っています。

このたび、『改訂版』に準拠した『教師用手引書』を作成しました。各紙面の内容ごとに指導案は掲載せず、小中学校でモデルとなる単元の学習指導案(本時のみ)を設けました。印刷して児童生徒に配布できるようワークシートも一部掲載しました。ご活用頂ければ幸いです。

名桜大学特任教授・玉川大学名誉教授
寺本 潔

教師用手引書を使用される先生方へ

観光事象は旅行会社や宿泊業に携わる実務の世界で語られるだけでは、狭い見方にとどまります。観光産業は地域や自国の産業振興と内外の相互理解に広く貢献する平和産業です。今後、世界の自然遺産や文化遺産を守り、人々の国際理解を促進する上でも不可欠な業種に成長することでしょう。ふるさとの魅力を価値にかえる観光の学びを始めてみませんか。

次世代の観光(基礎) 人材育成のための

3つのビジョン

初等教育の段階は、身近な地域社会や環境への興味、郷土愛を通して、社会の一員としての素地がつくれられ、観光者としての行動や観光産業への関心を持ち始める時期です。だからこそ、あこがれの職業観ができ始めるこのタイミングに、我が国の観光を通じた発展を支える次世代人材育成の基盤づくりを、初等教育の段階からスタートさせることが大切なのです。

1

地域が大切に守ってきた自然と文化の資源を
尊重できる子ども

2

人々に幸福と豊かさをもたらす観光の意義が
理解できる子ども

3

観光客がこの地域ならではの豊かな時間を楽しむために
自分は何ができるか、自分が責任ある観光者として何ができるか、を
考えることができる子ども

観光授業のひとコマ



「観光の花びら」で資源を
分類する板書



自県(沖縄県)の地図を
前にして観光プランを
考え合う生徒たち



韓国からの観光客に
インタビューする子どもたち
(那覇市国際通りにて)

観光地の「強み」「弱み」「チャンス」「怖れ・心配」の4観点から診断するSWOT分析で北海道知床の可能性を多角的に考え合う学び



写真の出典:寺本潔・澤達大編著『観光教育への招待』ミネルヴァ書房。寺本潔著『地理認識の教育学』帝国書院

場面

1

小学校第4・5学年、中学校第1・2学年社会科もしくは総合的な学習の時間 学習指導案

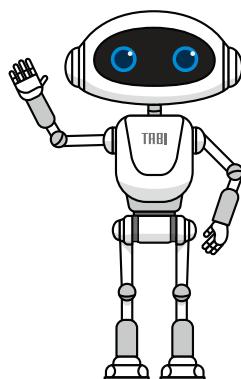
改訂版P.2~7

1

単元名『地域の観光の魅力って何だろう』



地域の「お宝」を見つけよう



2

本時の目標

観光客が何を求めて自分の住んでいる地域や地方を訪れているのか、図解「観光の花びら」を思考ツールとして用い、ペアやグループで考え合うことで、観光客の目線に立って地域や地方の観光資源や観光地としての魅力を確かめ、観光振興のアイデアや課題を見出すことができる。

3

評価規準

知識・技能

観光が自分の住んでいる地域や地方の発展にとって大事であることを理解し、地図や様々な観光情報・統計・画像等を読み取り、整理・分類できる。

思考・判断・表現

他者(観光客)目線に立って地域や地方の観光のあり方を思考し、観光の魅力や課題について多角的に思考・判断し、表現できる。

主体的に学習に取り組む態度

観光事象や観光産業について関心を高め、自分の住む地域や地方の観光振興に主体的に関わろうとしている。

4 本時の指導 (対象: 小4・5年社会科・総合、中学1・2年社会科・総合 関連: 国・算・特活)

	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>①自分の住んでいる地域に年間〇〇万人の観光客がやって来る理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの県には国立公園もあり、風景が綺麗だからだろうか？ ・世界遺産にもなっている有名な寺社があるよ。 ・テーマパークにたくさんお客様が来ているからではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域の代表的な観光地の写真を提示し興味づけを行った後、地域の観光統計を行政のHPより入手し、最新の入込客数を児童生徒に示す。 ・折れ線グラフの読み取りや統計表の活用など算数学で習った内容も想起させる。 ・中学校段階では観光統計の基本的な算出方法（国土交通省入込客数の共通基準）についても触れておく。
展開	<p>②『改訂版』のP.3に載っている図解「観光の花びら」に思いつく場所や建物、出来事などを友達と考えて書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何と言っても名物の食べ物はあれだね。「食べもの」の花びらに追加しよう。 ・昔のお城がある。「歴史」の花びらに書こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ具体的な場所の名前や建物名、生活文化を示す言葉を書き出すよう促す。あいづちを打ち、児童生徒から様々な観光資源の魅力を発言できるよう配慮する。
まとめ	<p>③図解「観光の花びら」に複数書きこめた花びらとそうでない花びらがあることを知り、その理由を考え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然がやっぱり人気かな？ ・生活文化ってどんなこと？ <p>④図解「観光の花びら」を参考にして、「観光地(資源) + 動詞」で観光客を呼び込むオリジナルなキャッチコピーを班で考え発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは「新緑が美しい〇〇川でカヌー体験を楽しもう！」を思いついた。 ・僕は「もみじ色に染まる△△寺で座禅をして俳句を詠む旅」と考えたよ。 <p>⑤班で話し合って良いフレーズを決め、班の代表者がチョークで書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化や施設の花びらが具体的には思いつくにくいため、例えば生活文化として方言や風習、家屋のつくり、施設としてホテルや動物園、駅舎でもいいことを告げる。 ・旅行代理店の店頭にある旅行パンフレットや旅のガイド本、雑誌特集などに書かれているフレーズも紹介し、訪れたくなるキャッチコピーや心地よさ、期待感を表す言葉(動詞)などが必要であることを示唆する。 ・一度に複数の児童生徒が板書できるように縦書きの記入枠を教師が板書しておく。

5 授業展開の解説

班学習か学級全体で、図解「観光の花びら」のワークシートを用いて地域にある観光資源を、自然、建物や施設、祭り・イベント、歴史、生活文化、食べものの6種類から分析的に捉える作業を行うことで**他者(観光客)目線に立って地域の魅力をつかめる**。著名な観光地域では複数の魅力が小学生でも容易に想起できるが、そうでない地域では、「生活文化」や「建物や施設」の花びらに書き込める要素が見出しにくい場合もあるため、方言や風習、旅館や駅舎、ダム等でも良いことを補足することで地域の魅力や観光客の楽しみ方も見えてくる。ワークシートに書き出された要素と『改訂版』P.3に掲載されている「観光による5つのメリット」を重ね合わせると地域の魅力度も判明する。さらにP.4に解説されている「観光が地域にもたらす効果」についても地方ではとりわけ重要な課題とつながるため、是非扱いたい。

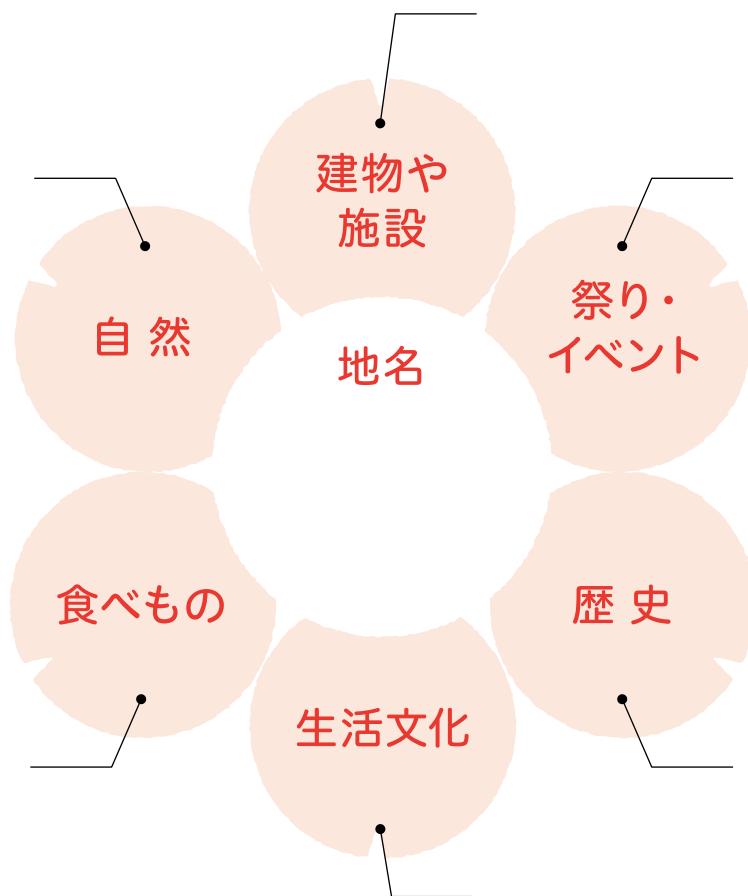
観光業はP.5に紹介されている「世界をよりよくする目標」(SDGs)と大きく関係し、持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)に通じる産業である。**これからの観光は、単に経済面での効果をねらうだけでなく、「住んでよし・訪れてよし」と感じられる「観光まちづくり」への指向も大事な時代に入ってくる。**観光振興により、地域に何がもたらされるのかを、学習者同士が考え合う授業が期待される。

観光の花びら ワークシート

このシートを班に1枚配布して話し合い活動を誘ったり、図解の略図を板書して意見を集約したりしてもよい。
中央の円内には市町村名や都道府県名、観光地名を記入する。
※印刷し、点線を目安に裁断の上、児童生徒に配布して下さい。

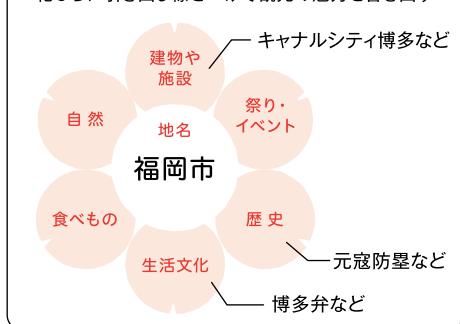
課題

あなたの地域の6つの観光の花びらを話し合い、下記に複数記入してみよう。



記入例

花びらに引き出し線をつけて観光の魅力を書き出す



年 組 氏名

場面 2

小学校第6学年社会科もしくは中学校社会科・総合的な 学習の時間 学習指導案

改訂版P.8~12

1

単元名 『YOUは何を目的に日本へ?』



妻籠宿(長野県)



体験する観光(そば打ち体験)



2

本時の目標

外国人観光客はどんな目的で我が国を訪問しているのか、外国人観光客から見た日本の魅力を類推することを通して、受け入れる私たちに必要なことや改善点を明らかにすることができる。

3

評価規準

知識・技能

日本を訪れる外国人観光客数の動向を表すグラフや国別の受入数ランキングを読み取り、近年の外国人観光客数の来訪について理解することができる。

思考・判断・表現

外国人から見た日本の魅力を友達と考え合い、日本の良い点や改善した方が良い点を具体的に整理することができる。

主体的に学習に取り組む態度

外国人観光客の動向に关心を持ち、外国人に人気の観光地のあり方や英会話での案内(ガイド)などに興味関心を持つとする。



4

本時の指導 (対象:小6社会科・総合、中1・2・3社会科・総合 関連:特活)

	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>①『改訂版』P.9~11を読み 「YOUは何を目的に日本へ？」をテーマに意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの2020年はすごく減っている！ ・やっぱり日本食やショッピングが人気だね。 ・アニメグッズや忍者・日本刀も人気らしいよ。 ・温泉も外国人に人気だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港でインタビューするTV番組のひとコマを思い出させ、黒板に「YOU(外国人の人々)は何を目的に日本へ？」と板書する。「観光の花びら」で整理したことも思い出し、観光客目線で日本の観光の魅力を発言するよう促す。
展開	<p>②外国人観光客受入数ランキングのグラフを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパやアメリカ、中国に多くの観光客が訪れている。日本はまだまだ順位が下だ。 ・日本人が知らない外国人に人気の観光地もありそうだね。 ・国による習慣の違いも大事だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師より「みんながフランスや中国に、もし旅行できる場合、何を楽しみにしますか？また、何が心配になりますか？」と自分に引き寄せて考えてみることを促す(例としてチップの渡し方や公衆トイレの場所が分からないと困るのでと具体的な場面をあげる)。
まとめ	<p>③多くの外国人観光客が安心して日本に訪れてくるための条件整備について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語や中国語の案内看板を増やし、簡単な会話ができるように自分も外国語会話について練習してみる。 ・イスラム教の人はお祈りする場所が必要みたいだからそれぞれの町でも用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語看板や公衆トイレなど、設備面の充実だけでなく、おもてなしの心遣いや笑顔など、対人的なマインドやスキルに関しても大事である点に触れておく。 ・マナーの悪い外国人には教えてあげることも必要である点に触れておく。

5

授業展開の解説

近年の円安も追い風となり、外国人観光客の消費が全国各地に及ぶよう期待したい。外国人の来日は、レジャーだけでなく、留学や仕事での来日も立派な観光需要を喚起することにつながり、日本の魅力を高めていく上で不可欠な動向である。主に『改訂版』P.9~11の図や写真、解説文を丁寧に読むことで、**外国人観光客が何を目的に日本へ観光に訪れるのかを類推する学びは、想像力を働かせる面白味がある。**渋谷スクランブル交差点を見るために訪日したり、岐阜県高山市を訪れた外国人観光客が、初夏に水田の稲が育つ風景を見ただけでその美しさに感動したり、通学途中の小学生の黄色帽子とランドセル姿に興味を覚え、カメラのシャッターを切ったりするなど、外国人にとって日本の日常風景は魅力的に映る。こうした、日本人では気づきにくい外国人目線に立った対象について、教師から小話として紹介することで、この学習は楽しくなる。

インバウンド(訪日外国人旅行)と呼ばれる分野は、観光先進国として我が国が今後成長する上で、極めて重要なジャンルになる。外貨獲得という経済的な恩恵だけでなく、他国から評価されることを通して我が国自身の国際的な地位の向上にもつながるからである。国際情勢の先行きが不安定な中であるが、観光による交流は世界の平和の構築にとっても大切な要素となる。**観光による交流は、食文化や宗教、習慣の違いにも互いが理解し合う機会となり、敬意を払い寛容性を培うことにつながる。**指導にあたっては、外国人観光客を写した写真や外国人が好む国内観光地の写真が用意できれば、より具体的になるだろう。外国語学習とタイアップして観光案内マップを英語で作図したり、友達を外国人に見立て、英語でのガイドに挑戦したりする活動も楽しい(『改訂版』P.11の⑤)。

ダイヤモンドランキングで地域の観光の改善したい点に優先順位をつけよう

※印刷し、点線を目安に裁断の上、児童生徒に配布して下さい。

改訂版P.16ステップ2の学習例

課題

私が住むまちに、もっと観光客に来てもらう際に改善したい点(ア～ケ)に優先順位をつけて並び替えよう。

改善したい点(例)

- ア 多言語の案内看板を増やす
- イ 有名なお寺や駅に観光客が増え過ぎないように入場制限を設ける
- ウ 外国人をサポートするマイスターを準備する

改善したい点(例)

- エ 観光客にゴミ捨てのマナー改善を呼びかける標語を考える
- オ 観光客にも住民みんなで笑顔と挨拶の声かけを励行する

高

優先順位

低

改善したい点(例)

- カ 観光地の外に駐車場を設けて街中は歩いてもらう
- キ 空いている部屋がある家を集めて民泊施設にする

改善したい点(例)

- ク まちの特産物を材料にしたスイーツをつくる
- ケ 季節ごとの楽しみ方を紹介する動画を制作する

年 組 氏名

場面 3

小学校第6学年もしくは中学第3学年 観光の仕事について考える特別活動 学習指導案

改訂版P.17~18

1 単元名『観光産業で働く人を取材しよう』

2 本時の目標

二人一組になり、イラスト中の働く人に仮想インタビューするという設定で、観光産業に関わる多様な仕事について関心を持つことができる。



3 評価規準

知識・技能

観光産業で働く様々な人の制服や仕事の特色を理解し、取材の技能を身に付ける。

思考・判断・表現

直接観光に関わる仕事とそれを陰で支える仕事があることが分かり、自分の興味ある仕事が何かを判断できる。

主体的に学習に取り組む態度

観光産業に関わる様々な仕事に興味を抱き、将来のキャリアにつなげようとする。

4 本時の指導 (対象:小6もしくは中3特別活動)

	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>① 2人で『改訂版』P.17~18のイラストを見て仮想インタビューしてみたい仕事を1つ選ぶ。1人はその仕事で働く人役、1人はインタビュア役で行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・キャビンアテンダント(CA)さんに取材してみたいな。・私は水族館で働く人にインタビューしてみたい。・「観光産業を支える人」にある看護婦さんに聞きたい。	<ul style="list-style-type: none">・『改訂版』P.17~18のイラストは、広い意味で観光産業に関わる仕事を表したイラストであることを告げ、雑誌やテレビ番組での取材をイメージさせる。名付けて『勝手にインタビュー作戦!』
展開	<p>② その仕事についての「きっかけ・苦労・今後の抱負」の三点をイラスト中の働く人に投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none">・「CAになろうと思ったきっかけは何ですか?」・「水族館のお仕事で苦労する点は何ですか?」・「これからどんな旅行の企画を考えたいですか?」	<ul style="list-style-type: none">・可能な限り、観光客との対応に関する仕事での思いを尋ねるように促す。ディナーの食材を支える農業や漁業に携わる仕事にも興味を抱かせたい。
まとめ	<p>③ 選んだ「観光産業で働く人たち」が「生きがい」や「やりがい」を感じていることを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・教師から、観光は“感幸”に通じる仕事である点を付け加え、仮想の取材をして興味のある仕事があるか、友達と話し合ってみるよう勧める。

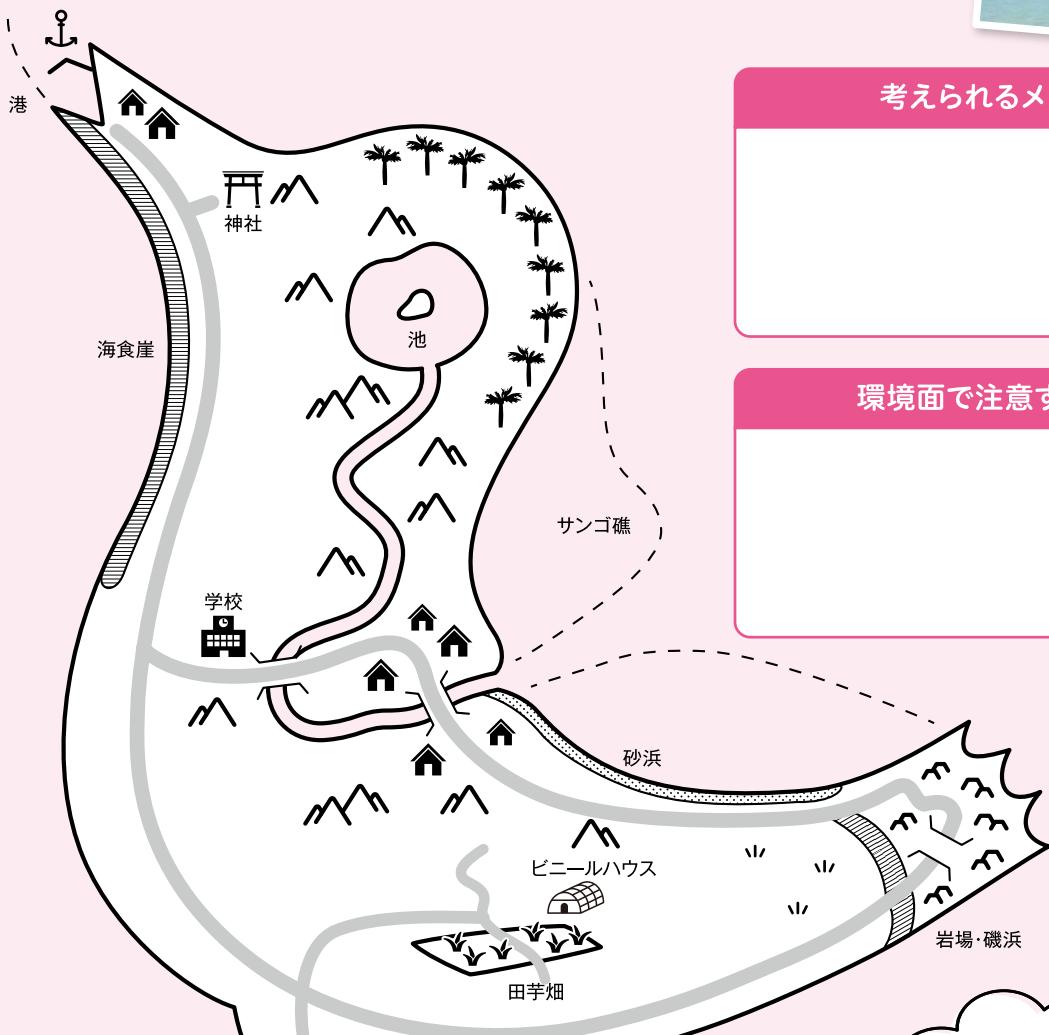
SDGs目標8番や14番・15番を考える白地図教材

このワークは『改訂版』P.4~6の「観光が地域にもたらす効果」「世界をよりよくする目標」の発展的な学習として位置付けて下さい。紙面の関係で学習指導案は省略しますが、小5社会「環境を守る」や5・6年総合的な学習の時間で自然環境と人間による開発との関係を学ぶ場面や、SDGsの目標と絡めて「8:働きがいも経済成長も」や「14:海の豊かさを守ろう」「15:陸の豊かさも守ろう」を考える際のワークで使用すると良いでしょう。

※印刷し、点線を目安に裁断の上、児童生徒に配布して下さい。

バード島(架空)にリゾートホテルを建設するとしたら

あなたがホテルのオーナーだったら、この島のどこに建設したいですか？
建設にあたり、考えられるメリットと環境面で注意すべき点を考えてみましょう。



考えられるメリット

環境面で注意すべき点

これからは
レスポンシブル・ツーリズム
(責任ある観光)が
大事だね



年 組 氏名

公益社団法人日本観光振興協会について

公益社団法人日本観光振興協会は、我が国の観光振興に関する中心的な機関として、官民を含む全国の数多くの会員の皆さま（都道府県、市町村、観光協会、観光関係団体、観光関連企業など約700）とともに、地域や産業界と幅広い連携を促進しております。

全国各地域の観光振興のための様々な事業や情報発信を展開し、観光を通じた持続可能な社会の形成を目指しております。

**観光地域づくり
研修なび**



JAPAN 47 GO



観光とまちづくり



自治体や観光協会、DMOなど、
地域の関係者向けの
研修メニュー・講師を紹介



<https://www.nihon-kankou.or.jp/jinzai/>

全国の観光情報11万件を保有する
「全国観光情報データベース」をもとに
構築した観光情報サイト



<https://www.japan47go.travel/ja>

観光をめぐる様々な事象を取り上げ、
その分野の識者とともに解決の方向を
探る観光の総合情報誌



<https://www.nihon-kankou.or.jp/home/kikan/>

※ご案内の中の情報は一例です。詳細の情報は、当協会のホームページよりご覧ください。

手引書執筆者紹介 寺本 潔(てらもと きよし)

名桜大学特任教授・玉川大学名誉教授

1956年熊本県生まれ。筑波大学大学院修了。
筑波大学附属小学校教諭、愛知教育大学教授、
玉川大学教育学部教授を経て現職に。
学習指導要領作成協力者や中央教育審議会専門委員等を歴任。
主著に『観光教育への招待』ミネルヴァ書房(澤と共に編)や
『地理認識の教育学』帝国書院がある。

観光でまちを元気に! 日本・ふるさと再発見!改訂版 教師用手引書

編集 (公社)日本観光振興協会
発行 令和4年9月30日
執筆 寺本 潔

